

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根付いた施設となれるよう町内会への参加や運営理念である「みんなで気楽に楽しく仲良く暮らせたらいいね。」を共有し振り返る機会を設け実践に繋げている。	地域との交流・利用者や家族の考えている暮らしの実現を目指した事業所独自の理念が作成されている。また、理念を実践するため理念を3か条に具体化した「GH大形運営方針」を全職員で話し合い作成して理念と共に掲示し、毎月の会議時に振り返りを行ない、共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のゴミ捨てや近所へ回覧板を届ける際挨拶をしたり地域の行事に参加させていただき交流を図っている。運営推進会議において自治会長様に参加いただいている。月1回の地域の茶の間に参加させていただいている。	日頃から散歩や買い物に出かけ住民と挨拶を交わしたり、利用者と一緒にゴミ捨てを行ったり回覧板を届けたりした際に挨拶や会話を交わしたりするなど、日常的に交流している。自治会に加入しており、回覧板にホーム便りを載せ情報発信し、地域の方々にホームの様子を知ってもらえるよう取り組んでいる。また下水清掃や自治会主催の防災訓練などの地域行事にも積極的に参加し、地域の一員としての役割りを果たすよう努めている。保育園児や地域ボランティアの訪問も頻繁にあり、また保育園や小学校の行事への参加や、地域のお茶の間の参加など、積極的に地域との関わりを持つよう努めている。	ホーム側から積極的に外に出て地域と関わりを持つよう努めているが、普段の暮らしの中で、隣近所の人たちが立ち寄ったり、遊びにきたりしてくれるような環境が整っていない。地域とのつきあいをより深めるため、例えば茶話会などを開催して参加を呼びかけるなどしてホームに気軽に立ち寄ってもらえるような取り組みを行ない、より親しい間柄となることに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している広報誌を回覧板に載せていただいている。グループホームの案内や介護認定の仕組み等を地域の皆様にご覧になっていただける機会を設けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームでの近況の報告や議題について出席いただいている皆様と意見交換を行っている。	家族代表・自治会長・市の介護相談員・地域包括職員・他事業所管理者などが参加して2ヶ月に1回開催し、活動状況を報告し意見交換している。利用者が参加することもある。市の「むすびあい手帳」について情報提供を受け検討したり、地域のお茶の間に参加できるようサポートしてもらったり災害時の協力者を紹介してもらうなど、アドバイスや協力を得ながらサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月介護相談員の訪問があり必要な時に相談を行っている。また、区の高齢介護課や保護課、市の高齢介護課と連絡を取り合っている。グループホームで事故が起こった時の報告書、運営推進会議の内容をまとめた議事録を郵送にて報告している。	市や区の担当者には日頃から何かあれば報告・相談するなど連絡を密に取っているほか、市の介護相談員が運営推進会議メンバーであり、また毎月の訪問もあり、現状を把握してもらうと共に相談にも乗ってもらっている。市の保護課職員の定期訪問もあり、各種関係部署と連携している。また、市の研修に参加したり、元氣力アップサポーター制度への登録、「むすびあい手帳」の導入検討など、市の取り組みにも積極的に参加・協力しながら協力関係が築けるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの整備し、研修の参加、職員会議での伝達研修を行い、職員全員で身体拘束が行われないようケア方法や環境について振り返る機会を設けている。	身体拘束をしないケアのマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って勉強会を定期的実施し、職員は身体拘束をしないケアについて理解を深めている。外出時にリスクのある方が数名居り見守りが手薄になる時間帯は安全確保の観点から家族の同意を得た上でやむを得ず施錠しているが、施錠による被害や他の利用者への影響も理解した上で解錠に向けた話し合いを繰り返している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケアと同様にマニュアルを整備し虐待が行われないよう年に一度は必ず研修の機会を設け振り返りを行っている。	虐待防止のマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って勉強会を定期的実施し、職員は虐待防止について理解を深めている。管理者は職員のストレスにも配慮し、ストレス軽減には困っている事など何でも話し合える関係作りが大切であると認識し、随時相談等に乗りながら良い職場環境作りに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会はしていないが地域包括支援センターの方や地域の民生委員様との話の中で少しずつ学んでいる。職員皆が活用できる様勉強会や研修の機会を設けたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については、ご利用者様のご自宅にお伺いした時やグループホームの見学対応の機会の中でご利用者様、ご家族様からの質問に対する返答やグループホームの説明をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見交換を行い、ご利用者様、ご利用者ご家族様の意見や要望が外部者へ表せる機会を設けている。家族会、ご利用者ご家族様参加型の行事、面会時に話し合いの場を設けている。	利用者からは、日々の関わりの中で意見、要望等の把握に努め、把握した内容はケース記録や申し送り簿、センター方式の該当箇所に記録し共有している。家族からは、家族会や家族参加型の行事を開催したり、面会や通院介助などで来訪された際に意見を伺う良い機会ととらえ、積極的に声掛けし、意見等の把握に努めている。把握した意見等は個人台帳内の「家族記録」欄に記録して共有している。把握した意見・要望は出来るだけ運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、ユニット会議、各係の会議の際に意見を伝えている。年2回の面談時、他随時必要な時は職員個々に意見を聞く機会を設けている。	職員会議、ユニット会議、レク・環境・給食各係の会議を毎月開催し、職員が意見や提案を言う機会を設けている。個別面談も年2回行っている。また、管理者は日頃から職員に声掛けしアドバイスをしたりしながら何でも話し合える環境作りに努めており、職員も言い易い雰囲気を感じていて積極的に意見・提案を行なっている。出された意見・提案については否定せず、目的を確認した上で職員の自主性に任せ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者の定期的な訪問と職員会議の参加と指導に合わせ、資格手当、キャリアパスの精度、内部、外部研修への推進等職員の向上に対して肯定的である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	職員のキャリアに合わせ研修を設定し数日 間の研修の機会を設けている。また個々の 職員が年間を通した目標を設定し、達成で きる様支援や助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	近所にあるグループホームの管理者や職員 と運営推進会議の場や相互訪問等で交流 の機会を持っている。また外部研修の場で 交流する機会を持っている。意見交換を行 いながらサービスの向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の事前面接の際に、ご利用者様とご利用者 ご家族様からこれまでの生活状況や様態、生活 歴、現在の状況を伺い、利用に係わる希望を把 握し支援に臨めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	電話での問い合わせ、見学に来られた際、事前面接 の際に、グループホームの設備や環境、ご利用者様、ご 家族様への対応をどのように職員が心掛けているかご 家族様に時間をかけてお話できるよう努めている。ま たご利用前に体験利用の提供等ご家族様が安心でき るような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	緊急を要する場合や相談をしている中で、 必要なサービスがある時は、他事業所の紹 介や説明等の支援を行い、ご利用者様とご 利用者ご家族様の負担軽減に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様お一人おひとりの生活歴や現在 のADLを把握し日常生活の中で活躍してい ただける様配慮している。何事もご利用者 様の了解を得た上で取り組んでいる。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	グループホーム主催のご利用者ご家族様参 加の行事の他、外出、外食、面会がみられ ている。ご利用者様からのご希望や相談事 も、ご利用者ご家族様に報告し、関係の継 続が図れる様留意している。	毎月グループホーム便りと共に利用者の様子を知らせ る個別の便りと写真を送付し、ホームでの様子を知って もらえるよう努めている。面会時は自由に出入りしても らったり、面会時間の制限も少なくするなど面会し易いよ う工夫した結果、来所回数が増えた家族もいる。訪問時 の職員対応も丁寧であり、家族も面会に来易いと感じて いる。また、家族参加型の行事に招いたり、家族に外食 や外出に連れて行ってもらうよう促しながら共に過ごす 時間が増えるよう取り組み、関係が継続できるよう支援 している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係を継続できるようご利用者ご家族様には入居前から、面会、外出がいつでも可能である事を伝えており、家族の他、友人、知人も面会に来られている。ご家族様のご協力により、墓参りに出掛けられたり、ご利用者様と料理をして下さる方もおられる。	入居時に本人や家族から馴染みの人や場について情報収集し、センター方式の書式にまとめ、共有している。情報を基に、馴染みの美容室や墓参り、恒例の初詣へ行く等、家族の協力も得ながら支援している。知人が訪ねてくれた際にはこころよく受け入れ居室等でゆっくりとして頂くよう配慮しており、友人・知人や親戚等、多くの方が来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、職員が情報を共有している。席の配慮や利用者同士の悩みをお聞きしながら、調整役となるよう支援している。またご利用者様同士で協力して物事に取り組みれたり、励まし合う姿もみられている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたご利用者様には毎回ホームの職員が交互に見舞いに伺っている。また、ご利用者様の状態を把握し、ご利用者ご家族様と話す機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はご利用者様の思い、希望、悩みに耳を傾け、ご利用者様の期待に沿えるよう、カンファレンスにおいて情報共有を行っている。意向の把握が困難な時はご利用者ご家族様に確認させていただく等の対応を行い意向に沿えるよう努めている。	日頃から会話する機会を多く持ちコミュニケーションを図り利用者の言葉を傾聴し、希望・意向の把握に努めている。また、3ヶ月毎のケアカンファレンスには本人にもできるだけ出席してもらい話を伺ったり、介護計画の更新毎にあらためて希望・意向の再確認を行なっている。言葉の少ない方など、会話での把握が困難な方には、工夫して声掛けして思いを引き出したり、表情や家族からの情報を基に検討し、推測している。把握した情報は介護記録やセンター方式の書式に記録し、職員間で共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様が安心して暮らせるよう、ご利用者ご家族様からも協力していただいたセンター方式のアセスメントツールにて生活歴、馴染みの物、人、生活環境を職員全員が把握できるよう努めている。ご利用者ご家族様の訪問時に情報を得る様に努めている。	契約時に自宅や利用中の施設を訪問し生活環境や過ごし方を把握するとともに、センター方式を活用して本人・家族から詳細に聞き取りを行い、これまでの暮らしの把握に努めている。サービス利用の経過等は前の介護支援専門員や介護施設などから情報収集している。利用を開始してから把握に努め、得た情報は記録し共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的開催しているカンファレンスや毎日の申し送りを活用し、ご利用者様の心身状態、生活のリズム、有する力を把握し、職員間で情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行う会議でもモニタリングを行っている。ご利用者様の心身状態の変化を話し合い、ご利用者様が安心して暮らせるように、介護計画の内容をご利用者様、利用者ご家族様、チームで話し合い作成している。	モニタリングは居室担当者が中心となり毎月実施し、モニタリング結果を基に職員カンファレンスを実施してケア方法や課題解決について話し合い、利用者・家族のより良い暮らしを目指し取り組んでいる。状態変化時や利用者・家族の新たな希望等があった場合はその都度、カンファレンスし介護計画の見直しを行ない、現状に即した介護計画の作成に努めている。介護計画変更時は出来るだけ家族に来所してもらい、変更に至った経緯等を直接いねいに説明し、話し合いを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、各種記録を一冊にまとめる事により日々の様子、気づき、工夫等が分かりやすく確認出来る様にしている。業務に入る時やカンファレンスの時に活用し、職員間で申し送りや確認ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の受診は、内科医、整形外科医、皮膚科への受診や往診にて協力を得ている。看護師を職員として配置し健康管理の対応ができています。主治医から家族、職員と情報共有の連絡が行われている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月10名前後の傾聴ボランティアの方々が来られ、ご利用者様の思いを聞いて下さっている。マジックショーや踊りのボランティアの方々もお招きしご利用者様にご覧いただいた。また今年度も月1回の地域の茶話会に参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望されているご利用者ご家族様には関係性を継続していただける様同じ医院に受診していただいている。かかりつけ医の変更のご希望があった場合は適切な医療が受けられるよう新しいかかりつけ医との関係を築ける様支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。家族同行での受診の際には必要な情報を文書にして渡したり、必要時には職員も付き添い、適切な医療が受けられるよう支援している。受診に関する情報は受診記録に記録し、共有している。また、認知症専門医の往診や看護師による週2回の健康管理も行われており、医師や看護師からアドバイスを頂いたり情報交換等で話し合うようにし、関係構築に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を職員として配置し、日常の気づきを口頭や看護ノートに記載し、ご利用者様の健康状態や処置について相談している。必要に応じては相談後に受診支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師や相談員との情報交換やカンファレンスを通して早期退院に向けた連携を図っている。職員も情報提供や定期的にご利用者様の面会に伺い、安心していただける様配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、ご利用者様とご利用者ご家族様には終末期の在り方について意向を確認させていただいている。ご利用者様とご利用者ご家族様、医療機関、事業所とで協力して終末期を迎えられるよう方針の共有を図っている。	終末期に関する対応指針・同意書が用意されており、契約の際にホームの方針や対応しうる範囲等を説明し、意向等を伺いながら話し合いを行ない、同意を得ている。また、入居後も重度化に備え変化時には早めに家族・かかりつけ医・看護師など関係者と話し合い方針を決定・共有し、家族の不安軽減に努めながら支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応は、事故発生、緊急マニュアルに沿って対応を行っている。また、消防署で行われている救命救急入門コースに全職員参加し事故発生時に備えている。	緊急時対応マニュアルが整備されており、全職員に周知されている。消防署員による救急救命講習を全職員が受講しており、実践力を身に付け緊急時に備えている。また、健康管理で週2回来所する看護師に利用者の状態について相談し、既往症や現在の症状を踏まえその人に必要な観察・対処方法の指導も受けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会の下に避難訓練を行い、消火器の使い方や避難方法の訓練を行っている。自治会で配布された水害時の避難地図を廊下に貼っている。火災に限らず、震災や水害など災害全般に関する消防マニュアルや防災用品を整備し、非常事態に備えている。	年2回、消防署員立会の下、昼夜を想定した避難誘導訓練を行なっている。夜勤体制下の通報・協力の確認など実践的な訓練が行われている。今年度は地震の全市訓練に参加し、実際に指定避難場所の小学校まで利用者と共に避難する訓練を実施した。各種災害の対策マニュアルが整備されているほか、地域のハザードマップを廊下に掲示したり、防災ずきんとして使用できる座布団を用いたりし、災害時に備えている。地域との協力体制については、自治会長から協力者を紹介してもらい、災害時の協力依頼を行なっている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴や性格等を考慮しご利用者様毎に適した言葉掛けができるよう配慮している。会議を中心として職員で話し合いの場を設け対応している。	職員会議などで適切な声かけや丁寧な言葉づかい、挨拶等について話し合いがされており、また日頃から職員同士互いにチェックし合い、職員は適切な対応・言葉使いを身に付けている。利用者へは年長者として敬意を払いつつ、その人一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている。個人記録の記載は利用者や外部の人の目に触れないように気をつけて行ったり、カンファレンスは利用者に聞こえないように行い、プライバシーへの配慮を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の判断能力や意思表示方法に応じて、表情や身振り等を取り入れ個々に働きかけている。日常生活の中で、飲み物の選択、食べたい物、行きたいところ等、ご利用者様の希望を伺いながら生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の一日のペースやその日の気分や体調等に沿って、食事や入浴、買い物、休息等の支援を伺いながら柔軟に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と共に更衣時の衣服の選択をしていただく時に、ご利用者様のお好みの色合いを確認していただきながら選んでいただける様に言葉かけの支援をしている。近隣の美容院と連絡をとり定期的にご希望のご利用者様にカット、毛染め、パーマをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事やおやつの準備、食器類の片付けをご利用者様からすすんで声を掛けて下さる関係性ができている。季節の食材を使用し話題の提供や見て楽しんでいただけるよう工夫している。	献立は給食係の職員が利用者の好みや栄養バランスを考慮し、畑で利用者と一緒に育てた作物など旬の野菜を採り入れて季節感を出すよう配慮しながら立てている。食事に関する一連の作業は、一人ひとりに出来ることを手伝ってもらっており、作業を楽しみにしている利用者もいる。職員も一緒に食卓を囲み同じ物を食べ、利用者は職員との会話を楽しみながら楽しそうに食事を摂っている。また、定期的に外食に出かけたり、利用者の希望を聞いて弁当やハンバーガー、すしなどのファストフードを購入するなどの工夫も行い、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個々に記録、水分摂取料は大まかではあるが把握し、一日5回程水分補給を行っていただけるよう促し、その他は希望時にお茶等を飲んでいただいている。栄養バランスについては、法人内の給食担当者やグループホーム事業所同士で会議を行い、栄養士の指導を反映させている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援、夜間に洗浄の支援を言葉かけや確認の支援を行っている。ご利用者様ご自身で行う事が出来ない方には、職員と共に会話をしながら出来る所を行っていただいている。歯科受診をされたご利用者様には歯科医師からのアドバイスを元に支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の状態に応じて排泄チェック表を用意し、排泄リズムを把握することによって、トイレ誘導や声掛けを行っている。また、尿取りパットの交換等は、ご利用者様の羞恥心に配慮しさりげなく支援している。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、なるべく失敗がないよう声をかけ誘導している。排泄の自立に向け、出来ることは自分でやってもらい、職員による介助は必要最小限度にするよう心がけて支援している。紙パンツやパット類については、本人の希望を聞きながら職員で使用根拠などを話し合い、排泄の自立に向け、安易な使用は避けるよう取り組んでいる。羞恥心への配慮も適切に行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用してご利用者様の排便状況を確認している。水分補給(お茶や寒天)と野菜を多く取り入れた食事を提供している。また毎日体操や近所の散歩等軽運動を行っていただく事で予防に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人員体制が厚い午前中の中の入浴が主ではあるが、ご利用者様の希望に沿えるように環境や職員体制を整えている。ご利用者様の体調や希望に沿う事が出来るよう体制を整えている。お一人お一人がくつろいで入浴される事を考えている。	一日おきで午前中の中の入浴を基本としているが、希望があれば回数や時間帯の変更も可能な体制となっている。湯温や入浴時間も健康状態に留意しながら希望に沿うよう支援している。拒否される方には無理強いをせず、声掛けなど工夫しながら気持ち良く入浴してもらえよう努めている。また、ゆず湯やしょうぶ湯などを行ったり、時には同法人のデイサービスの入浴場に入浴に行くなどして、利用者が楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様毎の体調に合わせていつでも休息がとれる環境を整えている。また疲労感が見られた際は休息をお勧めすることもある。夜間に眠れない場合にも飲み物を提供したり、職員とゆっくりと話をし過ごす等、安心できる環境作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルの中に薬の説明書を保管しいつでも確認出来る様にしている。グループホームの看護師と連携し、服薬の支援と症状の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様、ご利用者ご家族様より伺っているお一人お一人の生活歴や趣味、得意な事を活かした場を提供している。定期的な買い物や外食、その日の天候に合わせて散歩を行い気分転換に繋がるような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人員配置の状況等によりすべて対応できてはいないが、ご利用者様の希望に沿い散歩や買い物、ドライブ等の外出支援の対応を行っている。普段は行けないような場所へは行事として計画やご利用者ご家族様に協力の相談をさせていただいている。	食材の買い出しや近隣の散歩、ゴミ出しなどで日常的に外出している。利用者の個別の買い物など、希望によっても臨機応変に出かけている。また、地域のお茶の間に参加したり、保育園や小学校の行事への参加、同法人のデイサービスで開催される運動会や敬老会などの行事にも積極的に参加し、外出する機会が多くなるよう努めている。また、季節に応じてイチゴ狩りやブドウ狩り、花見などの外出行事を行い、普段は行けないような場所へ出かけ季節感を味わいながら良い刺激となり、また利用者にも喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様からの買い物の希望があった時は、職員と一緒に買い物に行き、出来る人は会計をしていただいている。お金の保管は金庫を利用し、希望に応じて出納帳の確認をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の要望に応じて電話をかけたり、ご家族様、ご友人と手紙や年賀状のやり取りをされ現在の状況や気持ちを伝えたり、近況のご様子の確認が出来る様支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節に応じた装飾(ご利用者様と話しながら職員と一緒に作成した物)やご利用者様が取り組まれたぬり絵、ご利用者様の近況の写真飾っている。また季節や天候に合わせて室温や明るさの配慮をしている。	居間・食堂は広くてゆったりとしており、利用者の居心地に配慮してテーブルやソファが配置されている。玄関等には多数の行事時や日常の写真が飾られており、来訪者にも喜ばれている。また、環境係りの職員が中心となり、季節感のある利用者の作品や花、装飾物等を展示し、利用者が季節を感じながら落ち着いて過ごせる空間作りがなされている。温度や明るさも適切な配慮・管理がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはベンチやソファを用意し、思い思いのペースで過ごせる環境作りに努めている。また、食事時等特定の場所で集まる場合もご利用者様と相談しながらご希望を考慮した席次となるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の配置や装飾、持参品はご利用者様がご自宅で使用されていた物や好みの物をご利用者様、ご利用者ご家族様と相談しながら取り入れている。	居室には使い慣れた家具や鏡などの調度品や小物などが置かれたり、家族の写真や折り紙等の作品を飾り、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるような環境づくりをしている。居室の入口は利用者と相談して決めた折り紙などで装飾し、部屋に愛着を持ってもらえるような工夫も行っている。室内は掃除が行き届き清潔に保たれており、また換気扇にホコリとりフィルターを付けるなどより良い環境づくりに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い共用空間と長い廊下を行き来されることで事前に歩行訓練が可能な環境となっている。個々の能力に合わせてシルバーカーを使用したり、安全な移動が可能なよう手摺りの設置や動線の確保、机やソファの位置にも配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				